

評価シート 様式

取組名	柏の葉地域の活性化を目的とした サービス指向の公共交通体系の構築調査		
実施団体名	柏の葉オンデマンド交通連絡協議会	対象地域	柏市大青田、船戸山高野、伊勢原、みどり台、柏の葉
(代表団体名)	特定非営利活動法人 柏の葉キャンパスシティITコンソーシアム	推薦団体名	千葉県柏市

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	柏の葉地域の活性化を目的とした サービス指向の公共交通体系の構築調査		
実施団体名	柏の葉オンデマンド交通連絡協議会	対象地域	柏市大青田、船戸山高野、伊勢原、みどり台、柏の葉
(代表団体名)	特定非営利活動法人 柏の葉キャンパスシティITコンソーシアム	推薦団体名	千葉県柏市

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	<p>本取組は新駅を中心に、その周辺の商業施設や病院、学校等生活の基盤となる施設やサービスを住民のニーズに合わせてオンデマンドで利用できるような日常生活交通手段を導入することで利便性に富んだ住環境の整備を図ろうとしている点で評価できる。H20の取組では、タクシー車両9台とバス1台を利用した運行実験の実施により、利用者の利便性を向上するシステムの改善が図られるなど、有償運行につながる一定の成果が得られた。一方で、有償運行に向けては、実運用レベルの調整や申請手続きが必要となる等の課題が明確になったことから、これらの課題に対応するための実施体制を整えることを前提に地方の元気再生事業を継続することにより、本格展開に向けて継続的な展開が期待できる。</p> <p>具体的には、本年度実施した取組の結果により顕在化した事業化に係るこれらの課題に対応するため、市、交通事業者その他地域の関係者による協議会等の推進体制を整えるなど、実施体制の見直しが必要と考える。H21年度に地方の元気再生事業の支援を継続するためには、実施体制の見直しがなされ、有償運行の実験が実行可能となる見通しが立つことが前提である。</p>